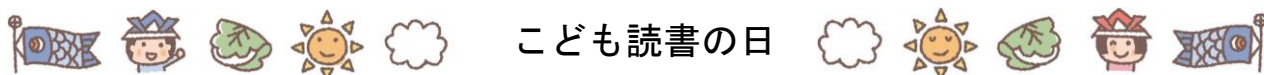


平成 28年 4月 26日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 5月号



幼稚園の玄関に「こども読書の日」のポスターが掲示されています。約 60 年前からこども読書週間  
が 4 月～5 月にかけて始まっています。この読書週間にちなんで、約 15 年前、4 月 23 日をこども読書  
の日として法律で定め、基本的な考え方や国や地方公共団体の役割が明記されています。ねらいは、  
子どもの読書活動を推進し、子どもの健やかな成長を願うものです。

幼児期の子どもたちにとって、本の中でも特に絵本が大切だといわれています。本園でも、年間を  
通して保育室で担任が絵本の読み聞かせを行っています。時間は特に決めていませんが、子どもたち  
の様子を見ながら担任が一日一回は行っています。各クラスだけでなく、預かり保育のうさぎルーム  
も同じように担当が子どもたちを集め絵本の読み聞かせをしています。

担任や担当の近くに子どもたちが集まり、一生懸命聞いてお話の世界に入っています。どの子の表  
情も豊かです。うなずいたり、悲しそうな顔をしたり、声を出して笑ったり反応は絵本によって様々  
です。この幼児期に多くの絵本と出会うことにより、心が豊かになります。本園の子どもがやさしい  
が多いといわれているのは、こうした毎日の取り組みとも関係あると思います。お話により自分の  
心を、自分で育てているのです。悲しい時は、うれしい時は、面白い時は、それぞれどんな時かを話  
を通して心に刻んでいます。心豊かな子どもは読書環境によって育つのです。ここでも環境が大切な  
役割を果たします。

ある作家が人生の中で絵本と出会うのは 3 回あるとエッセーに書いてあるのをを読んだことがあり  
ます。1 回目の出会いは、小さいころおうちの人や幼稚園などの先生に読んでもらった絵本です。何  
度も何度も読んでもらい、内容を覚えているお話があるはずです。2 回目の出会いは大人になってか  
らです。40 代のころです。仕事の悩みや人間関係で課題を抱えている時だと書いてあります。小さ  
いころ読んでもらった絵本を手にする大人が増えているそうです。3 回目は人生の終わりのころです。  
このように絵本は、子どもにとっても、大人にとっても、その時の状況により読んで感じるものが変  
わってきます。読み手にとって感動する内容が違ってくるのです。

さて、ご家庭ではどうでしょうか。絵本は選ぶのが難しいといわれます。まずは、多くの人が推薦  
している絵本、何年も読み継がれている絵本などを手に取ってみてはいかがでしょうか。毎日は難し  
いかも知れませんが、週に一回でもご家庭で読書の日を決め、家族みんなが本を手にとり、小さい子  
どもたちはおうちの人を読み聞かせによって、みんなが本を好きになることを目指して取り組みを始  
めてはいかがでしょうか。(山中 護)

